

# 穂別の化石を「むかわ竜」とするのを止す

ニユース  
第2号

9月25日に穂別で、10時からむかわ町穂別総合支所長等幹部職員3人と、11時から原芳弘・横山宏史両元町長、12時過ぎから穂別地域協議会の武田隆治会長、13時から穂別地区の3人のむかわ町議と、それぞれ四、五十分お会いし、取り組みの趣旨を伝え、懇談しました。その内容を、穂別総合支所の人との話し合いを中心に、紹介します。

## 「むかわ竜」との通称は、「決まった」と言えるのでしょうかー4つの疑問

この化石は、小林快次北大総合博物館准教授が「世界の宝」と言っている化石で、穂別地区の人達が70年以上、発掘と保存、研究、「化石を活かしたまちづくり」に尽くしてきた結晶です。この名前は、今後数百年、或いはそれ以上に語り継がれるでしょう。私は、「その名称が、こんなことで『決まった』と言えるのだろうか」と疑問を持ちました。4つの大きな疑問を紹介します。

**第1の疑問ー**  
会議を一度も開かないで「決まった」と言えるのでしょうか

私が、「いつ、どの会議で決まったのですか」と聞くと、会議はしていないとのこと。昨年10月か11月に恐竜化石がある自治体の会議があり、参加した職員が

「学名が決まるまで時間がかかるから、早く名称を決めた方が良い」と他の自治体の人に言われ、担当者が、起案して、関係部署が決済し、町長も決済して決まったとの事です。私が、「町長が決済するときも会議をしていないのですか」と聞くと、「していない」とのことです。これで、「決まった」ことになるのでしょうか。

**第2の疑問ー穂別の人**  
が納得しないと判っているのに、事務的に決められるのでしょうか

私が、「穂別の人達は納得しているのですか」と聞くと、支所の人は、「年配の人は納得してないが、多くは納得している」と答えました。しかし、私が「多くが納得している」と、どうして言えるのですか」と聞くと答えられませんでした。その後の議員の方との懇談で、山崎真照議員が、「50歳以上の人は納得してない」と言っていますから、「年配の人が納得してない」ことは、共通した認識なのでしょう。穂別地区では子どもも含めた住民のうち50歳以上が60%ですから、「決めた」人たちは、「穂別の多くの人が納得しない」ことをわかっていたのです。

また、50歳の人は、合併の時は38歳ですから、「年配の方」とは、穂別のまちづくりの中心を担い、「化石の里ほべつ」をつくり上げ、全国に広めた人たちです。この人たちが納得していなくても、「決まった」ことになるのでしょうか。

**第3の疑問ー**  
穂別を代表する人たちの意向を聞かずに決めるのでしょうか

私が、「穂別地区の3人の議員の方や元穂別町長の原芳弘さんと横山宏史さんの意見は聞いたのですか」と聞くと、「話していません」とのことです。穂別地域協議会の武田隆治会長にも話してませんでした。

私が「会議も開かない。地域を代表する人や長く携わった人達の意向も聞かないで進めるのはありえないことです。」と話したところ、「12月に発表するので急がなければならなかった」とのこと。「12月に発表すると、どこで決めたのですか」と聞くと、「担当者がそう考えた」とのことです。これで「決まった」ことになるのでしょうか。

**第4の疑問ー元町長2**  
人の再考の求めを議論もせず決まったと言えるのでしょうか

元町長の原氏と横山氏は、新聞報道で知ってびっくりし、報道の数日後に議員の人を通して竹中町長に面談を申し入れましたが、町長と会えたのは、その

1ヶ月後でした。会って「合併の精神に沿って、冷静に論議することが大事」と再考を求めましたが、要請を検討した返事は来ていないとのこと。原芳弘元町長は、旧穂別町の助役として1982年の穂別博物館開設に力を注ぎ、1986年から12年間、町長として、「化石の里ほべつ」を全国に広めました。このような重要な方の意見を真剣に検討しないで、決めたと言えるのでしょうか。

**竹中町長は、3月の議会で「決定した通称でも変わっていく」と言っています**  
**私たちの取り組みを更に大きくして、なんとしても再検討してもらいましょう**

「むかわ竜」と発表した後の議会で、野田省一議員（穂別地区）が、「穂別地区では、名称について、認識の違いや喪失感を持つ人が少なくない」と質問しました。竹中町長は「一旦決定した通称でも・・・発見者や発見地域等に敬意を表するなど、諸事情から、今後通称名が変わっていくことは考えられます」と答弁しました。「穂別の地域と先人に敬意を示し、穂別の人達が心から喜び、誇れる」(呼びかけ文から)よう再検討してもらいましょう。

【裏面もご覧下さい】

町外から化石の里ほべつを応援する穂別出身者の会 (略称：化石の里ほべつを応援する会)

2017年10月15日  
連絡先：☎・FAX 011-385-8368 田中弓夫

総合支所の人との懇談では、10日前に送っていた「呼びかけ文」にある、「穂別地域の人達が納得する配慮」「穂別の先人や地域の人への敬意や配慮」「『むかわ』と『むかわ穂別』の地名問題」「旧穂別町と鷓川町の合併の精神」についてどのように考えたかは、何も語られませんでした。そればかりか、気になることが2つ話されました。

1つは、私たちの取り組みを、「郷土が分裂する論争を起こしかねないと危惧している」と言ったことです

◎ 私たちの求めていることは、「①町民が納得する公の機関で議論すること、②議論は公開で行い、全会一致で決めること」この2つです。それは署名用紙で明確です。このようなことが、どうして「郷土を分断する論争」になるのでしょうか。

◎ 先に紹介したように、町長は議会で「決定した通称でも変わっていくことは考えられる」と答弁しています。このことは、「変えてほしい」との意見や議論が妥当なら通称を変えることを議会で確認したことになります。行政の担当者が、「新たな議論は郷土を分裂させる」と、議会の確認に背くようなことを言うのはいかがなものでしょうか。

◎ 私たちの取り組みが「郷土が分裂する論争を起こしかねない」と言うことは、「穂別の人達のなかに再検討することに共感を示す人達が多数居る」と自覚していることを示しています。「私たちの取り組みが穂別地区の人達の思いに応える取り組みだ」と認めたこととなります。

もう1つは、『むかわ竜』とすると、鷓川地区と穂別地区の住民の一体化に向けた気運醸成になる」と言ったことです

合併したした両地区が「むかわ町」の町民として気持ちを一つにすることは重要です。しかし、そのことは合併の時に、様々な会議を数多く重ねて議論してきたことです。それは住民の方たちの納得と合意を見届けることが大事だからです。「一体化に向けた機運を醸成する」と言うのでしたら、「どのようにすすめるか」「化石の名をそれに使うかどうか」等、その都度、地域住民の方々の意向を良く聞いて、納得を得て進めることが大事な

ことなのです。

先に紹介したように、原、横山両元町長の「再考の求め」も、真剣に論議された形跡はありません。私と総合支所の人達との懇談では、そのような要請があったことさえ話さずに、「穂別の人はこの名称に納得している」と言ったのです。寄せられる意見を真剣に受け止め、検討しようとする態度は、改めてもらわなければなりません。

原町政を受け継いで8年間町長を務め、旧鷓川町との合併では、「合併の理念」と、「両町の特徴と良さをそれぞれの地区が受け継いで新町発展の力にする合意の形成」に心血を注いだ横山元町長に相談もせず、穂別地域協議会の武田隆治会長にも話さず、短期間に期限を切った、実務的な進め方出来るものではありません。

親族の集まりや同期会、町内会、職場、同好会、団体の会合等、様々な所で署名が進んでいます。

穂別の人からも「このように取組んでくれるのは嬉しい」との声が寄せられています。

退職した教員の人達の集まりで説明し、署名してもらいました。

水野佐多子（札幌市）

所属している劇団の人達が協力してくれています。

鳴海輝雅（札幌市）

参加している合唱団や町内会の人達に話して署名を集めました

紀藤道博（苫小牧市）

ニュース第1号を見て、皆様が穂別を離れても思い続けていることに感動しました。エアロビクスの仲間や町内の人達に話したところ、快く署名をしてくれました。 町田栄子（千葉県）

高校の同期会で話して署名をしてもらいました。穂別から来た人は、「穂別では、『おかしい』と思っても、『人口は穂別地区が圧倒的に少ないのだから・・・』とあきらめている。このようにしてくれて嬉しい」と言っていました。知り合いの方々に署名してもらい、夫も職場で集めました。 田邊政代（札幌市）

中学時代の同級生に依頼したところ、「ちょうど穂別で親戚の集まりがあるから聞いてみる」と言ってくれた。後で「このような運動をやってくれるのはありがたい」と逆に励まされた」と言ってきた。 服部貞義（札幌市）

署名は10月末で最初の集約は11月15日迄に発送してください

集約結果は、11月15日付けニュースで紹介します。毎月末の集約ですので、2回目の集約は11月末です。

\*署名用紙や呼びかけ文、ニュースが必要な方は、電話などで連絡ください。自分でコピーしてもかまいません。